

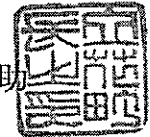


20立建第 767号

平成20年10月14日

国土交通省道路局長 殿

立花町長 田中 礼助



今後の道路行政についての意見・提案の提出について
(回答)

このことについて、別紙のとおり提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

福岡県立花町

道路特定財源制度が今年の税制抜本改革時に廃止され、来年度から一般財源化される際、「必要と判断される道路について着実に整備する」という「道路特定財源等に関する基本方針」が閣議決定されましたが、「必要と判断される道路」の判断・判定は、地域にとって大変重要となります。

地域住民の声を取り入れる住民参加の判断を期待します。

②-1 地域の現状と抱える課題

福岡県立花町

○現状

本町を南北に縦断している九州の大動脈であります国道3号は、日夜、長距離輸送の大型貨物車両の通行が多く一般車両と合わせ一日20,000台の通行があります。

近年、九州縦貫自動車道の広川インターと植木インター間は、国道3号を通行する長距離輸送大型貨物車両の通行が多く、渋滞や騒音・振動、排気ガス等沿線住民の住環境への悪影響をはじめ通勤時間帯は、各世帯及び接続する町道等から国道3号への乗り入れさえ困難な現状にあります。

特に、歩道未設置区間については地域住民の歩行に多大な支障が生じております。

近年、同区間はNEXCOによる社会実験割引のない区間でもあり、国道3号を通行する長距離輸送大型貨物車両の通行が急増していると思われます。

本町区間の国道3号は、これまで「魔の国道」とマスコミから報道され、連続する狭小の急カーブは人身・車両事故の多発地区として、近年はドクターヘリの出動も増加しております。

○課題

これまで、改善に向けた改修等が鋭意実施されてきましたが、これらの交通事情を考えると、バイパス・トンネル等の抜本的な改善が必要と思われます。

②－２ 地域の目指すべき将来像

福岡県立花町

本町は、天賦の緑豊かな山間部を有する人口１万人余りの農村地帯で、都市と農村の交流を目指す中、平成１７年２月に「道の駅たちばな」がオープンしました。

連日の集客は、農産物直売所へ出荷する地元生産者の生き甲斐とともに、都市部からの来客者との会話が高齢生産者の活力の源となっております。

このような状況の中、家族連れが小鳥のさえずりを聞き、川のせせらぎを楽しみながら町内の史跡・文化財等を訪ねられるような、ネットワークを形成し、景観にも配慮した道路交通網の整備を目指します。

また、物流道路と行楽道路の完全分離型の確立によって、住環境を重視した道路の整備を望みます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

福岡県立花町

○重要事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・安全・安心の確保	国道3号新矢部川橋（大字山崎）の更新	老朽化した橋梁の更新で安全で安心な道路の管理確保が出来る。	
	国道3号（辺春地区）の急カーブの解消	連続する急カーブによる、事故多発の防止によって地域住民の安全が確保出来る。	
・慢性的な渋滞への対応	国道3号全区間の豪雪時における迅速対策	豪雪時は、九州縦貫自動車道も閉鎖され国道3号も凍結状態で、大渋滞となるため迅速な融雪で、スムーズな交通の確保が出来る。	
・道路環境対策	国道3号（光友地区）の通勤・通学時の渋滞解消	バイパスの新設によって、スムーズな交通の確保が出来る。	
	国道3号全区間の騒音・排ガス対策。	低騒音舗装の整備及び街路樹植樹等によって、沿線住民環境の向上を図る。	